



2016 新春市民文芸

新春にあたり、俳句・短歌・川柳を募集したところ、俳句の部では915人の方から1,201句（うち小・中学生875人から1,083句）、短歌の部では26人の方から76首、川柳の部では28人の方から79句の応募がありました。たくさんのご応募ありがとうございました。

俳句の部は加古宗也氏、短歌の部は斎藤すみ子氏、川柳の部は西尾文化協会西尾川柳会に審査していただいた結果、次の皆さんが入選されました。おめでとうございます。

俳句

入選

特選



ビードロに新春の息吹きにけり

平坂町 永田 大典

入選

- 元旦や今日一日は白足袋で
木の家をこよなく磨き年迎う
米津町 金子あきゑ
- 元旦勤務ナースの顔で出で行きぬ
上羽角町 乙部 妙子
- 初雀影も弾んでをりにけり
熊味町 蓮沼 健
- 初鴉紳士に似たる面構
家武町 神取 和子
- 初笑なら大声で大胆に
下羽角町 服部 芳子
- 餅を搗く餅屋の杵は半自動
和気町 犬塚 房江
- 肩上げも腰上げもして春着の子
江原町 鈴木 恵子
- 薄味は母親ゆずりお取初
下羽角町 濱嶋 君江
- 初売りや大そろばんの黒光り
米津町 沢戸 守
- 大床の軸や万歳鼓打つ
江原町 近藤 雅恵
- 曾孫生れしこと真っ先に初日記
駒場町 信川 芳枝
- お正月くれば八十路の婆となり
一色町 粕谷 弘子
- 親友と屠蘇を楽しむ米寿かな
永吉四丁目 小野田みよ子
- 覚書少し詳しく初日記
東幡豆町 岡本 達子
- 屠蘇飾結びてありし銀の糸
熊味町 立松 朋子
- 去年今年枕頭にある電子辞書
江原町 鈴木よしゑ

俳句(小・中学生)

- こまくんぐるぐるまわるいつまでまわる
三和小一年 近藤 斗和
- はごいたはたのしいおとがきこえるね
鶴城小二年 オオタマイク龍
- お年玉たくさんくれてありがとう
鶴城小二年 長谷川 一太
- かずのこがとてもおいしいお正月
八ツ面小二年 松尾 奏佑
- たこあげは糸のばすほど高くとぶ
鶴城小三年 早川 向陽
- お年玉いっぱいもらってこまっちゃう
鶴城小三年 嶋原 吏梨
- 今年ね漢字をきれいに書きたいな
八ツ面小三年 鈴木琥太郎
- 初景色きれいな空を見ていたい
八ツ面小四年 有吉 沙羅
- お正月すごくいいことおこりそう
八ツ面小四年 鈴木 啓太
- ちらかったおもちゃかたづけおおみそか
白浜小四年 遠山 響生
- 年賀状私の笑顔とどいてね
白浜小五年 野口 瑚夏
- 年賀状気持ちをこめて書けたかな
八ツ面小五年 浅田 結衣
- 初売りだあれこれ買っておおにもつ
八ツ面小六年 福田 絆
- 初日の出見ると心が熱くなる
白浜小六年 小澤 哲生
- 福笑いいろんな顔に笑いあり
八ツ面小六年 鈴木 大聖
- 胸はずむあの人からの年賀状
東部中一年 黒水 朋香
- 年賀状今年も一年よろしくね
東部中一年 加藤 未鈴
- 新年を家族みんなで始めよう
東部中一年 稲吉 舞
- オレンジに染まるきれいな初景色
一色中三年 白井あゆみ
- 年賀状懐かしい字に笑みこぼれ
一色中三年 磯部 美希
- 日が昇りとうとう来たな新年よ
一色中三年 山内 佳奈

短歌

特選

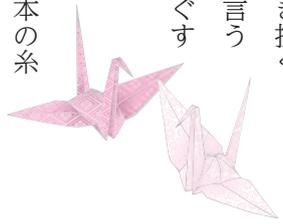
朗らなる初空に向き耀へり濃きくれなるの水木の冬芽

米津町

村上チオリ

入選

おもむろに東雲の空明けゆきて大西尾市を普く照らす
 転作の麦生あまねく霜を置き銀の褥となりて初春
 神前にも少し共に生きたしと祈るわが背に触るる手のあり
 まっ新たな割烹着つけ厨事年の始めの主婦の務めを
 村百戸静かに年の明くるなり牛舎より鳴く声野に響く
 春山の成道寺の坂上り来て力のかぎり鐘ひとつ撞く
 宝船・吉祥紋のめでたづくしは初染めの手描き友禅である
 ふたたびの乱舞を願ふ蛍の里新春の棚田に命は睡る
 激動の昭和ヒトケタ傍らにいつも寄り添う妻と生き抜く
 兄貴より頭悪いけど母ちゃんの面倒みるよと弟は言う
 蹴初め地下足袋はきて凧と立ち俄農の吾凍て土ほぐす
 盆栽はわれの楽しみ松竹梅苔石つめて鶴亀を置く
 霜深き庭に摘み来し若菜今雑煮の中に春を匂わす
 晩年の母が一途に編みたりしクッション解けば一本の糸
 初春に行き会ふ人は皆友と妻は野点の茶をすすめおり
 九人の子育てたまいし父母の恩徳ぶ米寿の幸せな初春
 「春よ来い」ユーミンの唄聞きながら地震ありし日を思い出している



天王町	高松	満子
下羽角町	石川	保一
須田町	野崎	祐子
幸町	吉見	ひで
花蔵寺町	三浦	貞子
野々宮町	川上	信子
鵜ヶ池町	富永	幸子
上羽角町	乙部	妙子
永吉町	石川	英一
伊文町	原田	熙恵
米野町	長谷	キヨ
永吉四丁目	小野田	みよ子
天竹町	鈴木	マツエ
上羽角町	金子	あきゑ
和気町	犬塚	房江
下永良町	榎原	さちよ
深池町	柘植	美苗

川柳

特選

年賀状手書きで声が聞こえそう

針曾根町

永谷ふみ子

入選

添え書きは今年米寿と胸を張り
 舞獅子の大き口より匂ひ酒
 一と椀は仏の夫へ雑煮かな
 夫婦にも楽しき嘘の二つ三つ
 初鴉ほしくばやるか阿茶羅漬
 鼻を飾る玄関苦勞なし
 夭逝の笑顔の遺影へ初諷経
 スマホから無邪気な孫のおめでとう
 年の瀬は妻が社長で我社員
 孫帰省ゲームとスマホで会話なし
 ダイエット忘れて食べるあんこ餅
 書くは駄目貰うは嬉し年賀状
 やや歪八十路の作の鏡餅
 まーちゃと固い握手や初笑い
 自ら節付けて読む歌留多取り
 髪型を変えて八十路の春を待つ
 初言葉下流老人上昇中

永吉町	石川	英一
鵜ヶ池町	富永	幸子
花蔵寺町	三浦	貞子
幸町	吉見	ひで
和気町	犬塚	房江
米津町	沢戸	守
下永良町	榎原	さちよ
上矢田町	太田	妙子
丁田町	川口	實
丁田町	川口	禮子
住吉町	松川	はるみ
駒場町	信川	芳枝
家武町	神取	和子
下羽角町	濱嶋	君江
家武町	中根	佐代子
米津町	沢戸	美代子
伊文町	原田	熙恵